

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

向日市文化資料館 (京都府向日市寺戸町南垣内40-1)

古代の都”長岡京”(789~794年)の宮跡の一角に遷都1,200年を記念して建設。常設展では、向日市内にある国の史跡 長岡宮大極殿・朝堂院の復元模型や、遺跡からの出土品を展示して、都に生きた人々の暮らしぶりを紹介。また、テーマ展示や講演会など、長岡京以外の時代を対象とする催しを時期に応じて開催。

1. 向日市文化資料館の状況

施設の基本情報 向日市立図書館、京都府埋蔵文化財調査研究センターと隣接

- ◆ 博物館種別：指定施設
- ◆ HP：向日市の公式WEBサイト>向日市文化資料館紹介WEBページ
- ◆ 開館時間：10:00~18:00 (最終入館 17:30)
- ◆ 休館日：月曜日 (休日の場合は翌日)、年末年始 (12/28~1/4)、資料整理日 (毎月1日。土・日・月曜日の場合は、次の火曜日)
- ◆ 入館料：無料



▲向日市文化資料館外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：あり
むこうしアーカイブ (向日市文化資料館 収蔵資料等データベース)

◆ 一部資料の公開：3,588点公開
(2026年2月24日時点)
<https://jmapps.ne.jp/muko/index.html>



▲向日市文化資料館
収蔵資料等データベース

◆ 復元・体感アプリ「AR長岡宮」
<https://www.city.muko.kyoto.jp/site/rekishi/1086.html>
スマートフォンやタブレット端末で史跡長岡宮の理解を深めることができる復元・体感アプリ。バーチャル技術を使ったVR(仮想現実)も閲覧でき、ゲーム性のある「怨霊退治モード」や、VRゴーグルを用いた体験も可能。



▲AR長岡宮イメージ

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

3. 常設展示室

常設展示：古代の都・長岡京に関するこれまでの発掘や研究の成果を、発掘された遺物のほか、当時の人々の衣服や食事を再現・展示することによって、わかりやすく説明。

・長岡宮翔鸞楼

朝堂院南門の西につくられた楼閣建物である翔鸞楼跡で発掘された土器や考古資料を紹介

・都づくり

都づくりのようすや造営に携わった庶民の姿を、イラストや造営に用いられた工具類・柱材、復原した庶民の食膳などで再現

・下級役人の仕事

発掘調査で出土した、木簡や墨書土器、その他多量の遺物で明らかになった太政官厨家で書記官として働く下級役人「軽間嶋粉」の勤務風景を再現

・長岡京東院跡

遺跡の写真パネルや「東院」と記された木簡・墨書土器、軒瓦などの遺物を展示

・宮都と政治

朝堂院や内裏の復原模型、宮殿を飾った瓦や鴟尾を展示し、古代都城の変遷のようすを示す

・貴族のくらし

中国や朝鮮の生活様式を取り入れた貴族の暮らしぶりを、宴会の食膳や衣服・装身具・調度品などで表現

おそれといのり

都の住人たちが祈りに使ったまじない物の遺物を展示

その他、1Fには市内の情報発信を行うタッチパネルディスプレイや文化財分布模型が展示され、2Fでは企画展として市内小中学校の学習成果を展示（向日市ふるさと学習成果展）。



▲常設展エントランス



▲長岡宮翔鸞楼 展示



▲都づくり 工具類展示



▲下級役人の仕事 展示



▲長岡京東院跡 木簡等展示



▲宮都と政治 復元模型



▲貴族のくらし
食膳再現展示



▲おそれといのり
まじない物展示



▲タッチパネル
サイネージ

4. 所蔵資料の特長

・常設展は長岡京に関連する歴史・考古資料が多いものの、展示されていない向日市の暮らしに関する民俗資料も多く所蔵する。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

現地調査：2025年10月30日（木）実施

◆参加者

- ・向日市文化資料館 館長 ████████ 氏
- ・向日市文化資料館 副館長 ████████ 氏
- ・向日市文化資料館 ████████ 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 撮影機材・セットの準備

- ・撮影セットは高さ180cm、奥行き120cm、幅60cmを基本とし、3セット程度準備。
- ・機材はレンタルまたはメーカーからの借用を検討。
- ・撮影はスマホ・既存機材・高性能レンタル機材の比較を行い、効果を示す方針。

2. 撮影対象と方法

- ・撮影対象は絵画、軸物、陶磁器、模型など多岐にわたる。
- ・特に額装された絵画やアクリル保護された作品の撮影方法に工夫が必要。
- ・立体物は3方向からの撮影が原則（仕様書に準拠）。
- ・水中展示物（例：独楽）など特殊な保存状態の資料は要相談。

3. 役割分担と支援体制

- ・DNPとNPO法人で撮影分担を検討。
小型資料はNPO法人、大型資料はDNPが担当する可能性。
- ・京都文化博物館との連携により、学芸員の支援や機材の活用も視野に。
- ・撮影補助には経験者を配置し、リスク管理を徹底。

4. 研修の進め方

- ・初日は研修、2日目以降は撮影に移行。
- ・撮影セットは施設に一定期間設置し、研修後も活用可能。
- ・撮影順序や対象は施設の希望と効率性を考慮して決定。

5. 課題と今後の対応

- ・撮影対象の多さと時間制約により、施設ごとの撮影計画の精緻化が必要。
- ・各施設の撮影希望リストをもとに、撮影順序や機材配置を調整。



▲現地調査時会議風景



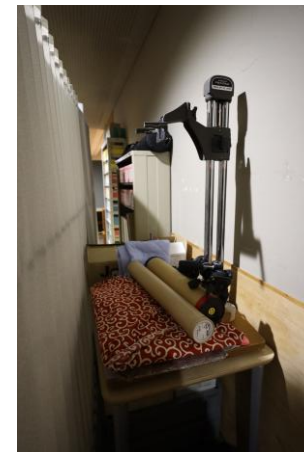
▲水中展示物（独楽）



▲考古資料



▲大型民俗資料



▲施設保有機材



▲施設保有機材

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

実地研修 (1日目)

簡易的な座学研修および、紙管組み立てからカメラ設置に至る写場作り、職員自身での簡易的な撮影体験までを実施。撮影用の機材に関して新規購入に向けた具体的な相談まで行われた。

1月6日 火	Day 1	研修準備日	分類	数量
12:50	集合	送付分機材 開梱・確認 機材 準備・調整 事前確認		
13:00	開始			
14:05		座学研修開始 (一部のみ) 写場作り・研修 (紙管組み立て・LEDライト設置・シート張り・カメラ設置等)	日計	0
15:35		撮影体験 (ピクセルシフト撮影・合紙作成・レフ板設置等) 既存機材の相談		
17:50	終了・退出			



▲撮影研修の様子



▲堀内氏による座学研修の様子



▲紙管セットの組み立て



▲撮影研修の様子



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

実地研修 (2日目)

デジタル化に関係する職員が集合し、実地研修を実施。撮影に関する詳細な研修を実施後、前日に構築した紙管セットをもう1セット作成、その後平面資料を中心に職員自身で撮影を体験。その中でピクセルシフト撮影やフォーカスシフト撮影といった手法についても解説が行われた。

1月7日水	Day 2	研修日	分類	数量
9:50	集合			
10:00	開始			
10:15		研修 (基本)		
11:00		撮影 (実技) 残り1セットの写場作り		
11:50				
	昼休憩			
13:00	再開	レフ板作成	平面	15
14:10		撮影 (実技)		
15:15	(休憩)			
15:30		撮影 (実技)	平面 立体	1 1
		床置きへのセッティングに変更		
16:45			平面 (大) 立体	1 1
17:30		撮影終了・撤収準備		
18:00	終了・退出			
			日計	19



▲座学研修の様子



▲職員自身による撮影の様子



▲レフ板の作成



▲ソフトウェア・カメラ相談の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影 (3日目)

常設展示室に展示中の資料、および収蔵庫所蔵の民俗資料・考古資料 (小型) を中心に、職員の確認を受けながら23点を撮影した。翌日に予定している大型資料の撮影に向けた準備を行った上で終了。

1月8日 木	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
9:50	集合			
10:00	開始	撮影セッティング・常設展示物視察	立体	3
11:00		常設展示物・収蔵庫の資料 撮影開始		
12:20	終了			
	昼休憩			
13:20	再開	常設展示物・収蔵庫の資料	立体	20
15:20	(休憩)			
15:30	再開			
18:00	終了・退出	バック紙のセッティングを準備し、退出	日計	23



▲DNPスタッフによる撮影の様子



▲職員が資料の確度を調整する様子



▲バック紙を用いた撮影に向けたセッティング

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影 (4日目)

常設展示室に展示中および収蔵庫所蔵の民俗資料・考古資料 (小型) を中心に16点を撮影後、バック紙をセットし大型資料5点を撮影。その後、施設が保有するカメラを用いて器類の撮影を行いたいという申し出を受け、再度セットを変更の上で3点を撮影した※。

1月9日 金 Day4	撮影2日目	分類	数量
9:50	集合		
10:00	準備		
10:30	開始	常設展示物・収蔵庫の資料	立体 10
12:20	終了		
	昼休憩		
13:20	再開	常設展示物・収蔵庫の資料	立体 6
14:45		バック紙にセッティング変更・撮影	立体 (大) 5
16:00		器等の撮影のためセッティング変更・撮影	立体 1
16:30		施設の保有カメラで撮影※	
18:00		撤収作業	
19:10	終了・退出		
		日計	22



▲撮影の様子



▲バック紙を用いた大型資料撮影の様子



▲施設保有カメラ用いた資料撮影の様子

※この日に施設保有カメラで撮影した資料については、解像度が事業の要件を満たしていない為「資料点数」に含んでおりません。

研修：17点/2日

※撮影点数19点から後日再撮影2点を差し引いた数量

- ・ 絵図類 (9点)
- ・ 文献資料 (6点)
- ・ 民俗資料 (2点)

撮影した資料点数
：62点 (133カット)

DNP撮影：45点/2日

- ・ 考古資料 (27点)
- ・ 民俗資料 (18点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影環境 (写場について)



▲撮影場所

向日市文化資料館 3階会議室：約70平方メートル

- ・講演会、イベント、デジタル化に利用
- ・撮影に使用可能な机・椅子等あり

●パターン①



▲文書 (2日目)

●パターン②



▲民俗資料 (3日目)

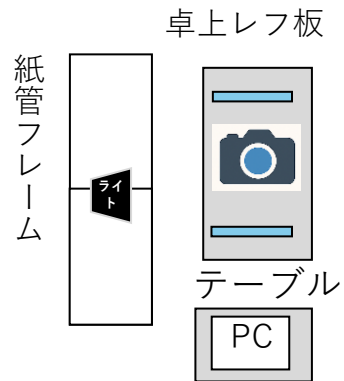
●パターン③



▲器 (4日目)

●パターン①

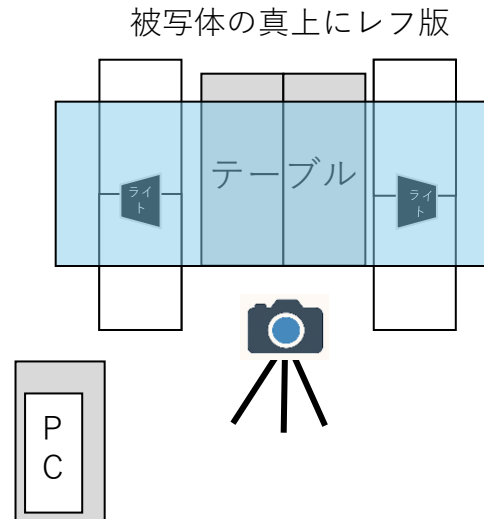
小型平面資料 (文書・地図等)



※カメラはスタンドで固定し上部に設置

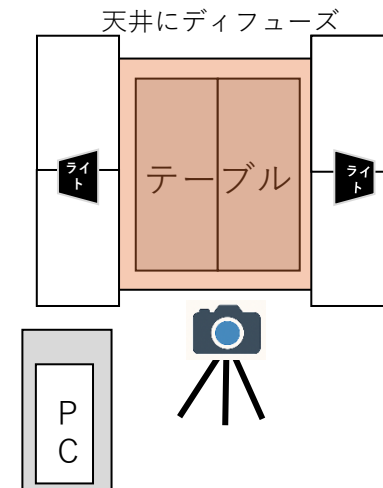
●パターン②

小型立体物 (民俗資料・考古資料等)



●パターン③

小型立体物 (器等)
対象物によって脚立で上から撮影



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影リスト (1/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	ホ199 天明8年12月(1664年)御触二付差上中絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	54.5×31.0、31.5×46.2 14.0×31.2、10.2×31.5	平面
2	海道悪水溝付替絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	27.5×42.5cm	平面
3	掘井戸明細図	文献資料	1月7日	研修で撮影	58.5×33.0cm	平面
4	「食糧問題の解決」ポスター	文献資料	1月7日	研修で撮影	39.1×54.2cm	平面
5	城州乙訓郡向日町惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	38.6×54.4cm	平面
6	山城国乙訓郡物集女村麓絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	39.5×54.5cm	平面
7	城州乙訓郡鶏冠井村惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	38.7×54.3cm	平面
8	乙訓郡上植野村惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	39.6×53.9cm	平面
9	物集女村絵図 明治3年	絵図類	1月7日	研修で撮影	56.6×39.7	平面
10	鶏冠井村 耕作地絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	49.5×34.7	平面
11	前田玄以定書〈複製〉	文献資料	1月7日	研修で撮影	29.5×45.8cm	平面
12	当町銘々渡世書帳〈複製〉	文献資料	1月7日	研修で撮影	27.8×21.1cm 厚さ約1.2cm	特殊
13	当町銘々渡世書帳	文献資料	1月7日	研修で撮影	27.8×21.1cm 厚さ約1.2cm	特殊
14	前田玄以定書	文献資料	1月7日	研修で撮影	29.5×45.8cm	平面
15	引札	民俗資料	1月7日	研修で撮影	37.7cm×52.7cm	平面
16	六人部暉峰作 日本画(雀、鯛、猫)	民俗資料	1月7日	研修で撮影	雀図(一番大きい):74cm×56.5cm(額入りの状態の外寸)	平面
17	鶏冠井・下久我・菱川村・用悪水絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	90.6×157.2cm	平面(大)
18	炭火アイロン	民俗資料	1月8日	DNP	寸法未測定 25cm×15cm×15cmほどか	立体
19	触れ太鼓	民俗資料	1月9日	DNP	28.0cm×23.5cm×19.0cm	立体
20	陶製湯たんぽ	民俗資料	1月8日	DNP	29.5cm×15.4cm×13.5cm	立体
21	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径1.4cm、胴長6.0cm	立体
22	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径1.9cm、胴長5.2cm	立体
23	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径3.7cm、胴長4.8cm	立体
24	役人の手なぐさみ(不明木製品)	考古資料	1月8日	DNP	全長7.4cm、最大幅2.7cm、厚さ2.7cm	立体
25	琴柱	考古資料	1月8日	DNP	全長3.6cm、最大幅6.3cm、厚さ1.5cm	立体
26	水差し(平瓶)	考古資料	1月8日	DNP	高さ3.3cm、高台径4.6cm	立体
27	朱をといた器(杯蓋・須恵器)	考古資料	1月8日	DNP	直径12.2cm、高さ2.1cm	立体
28	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径25.4cm、残存高8.8cm	立体
29	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径31.0cm、残存高7.0cm	立体
30	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径27.0cm、残存高9.0cm	立体

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影リスト (2/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
31	独楽	考古資料	1月8日	DNP	頭部径3.5cm、高さ4.5cm	立体
32	唾壺 (緑釉陶器)	考古資料	1月8日	DNP	高さ12cm、最大幅19cm	立体
33	高坏 (緑釉陶器)	考古資料	1月8日	DNP	脚部径11.0cm、脚部高11.5cm	立体
34	薬壺 (二彩陶器)	考古資料	1月8日	DNP	高さ8cm、最大幅9cm	立体
35	小型丸底壺 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径10.7cm、頸径6.5cm、体径7.7cm、口縁高4.5cm、残高9.9cm	立体
36	器台 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	受径8.1cm、頸径2.3cm、脚径11.5cm、受高2.1cm、残高9.3cm	立体
37	高坏 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径16.5cm、頸径2.8cm、体径11.3cm、口縁高5.1cm、残高13.1cm	立体
38	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径12.4cm、器高約18cm ※器高は実測図より推定	立体
39	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径約10cm、器高約20cm ※実測図より推定	立体
40	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径14.6cm、器高約15cm	立体
41	置き薬 (高崎薬房)	民俗資料	1月8日	DNP	20.0cm×16.5cm×10.5cm	特殊
42	刀形	考古資料	1月9日	DNP	全長30.6cm、最大幅約2cm ※最大幅は実測図より推定	立体
43	刀形	考古資料	1月9日	DNP	全長30.2cm、最大幅3.6cm	立体
44	鳥形	考古資料	1月9日	DNP	全長6.7cm、最大幅3.4cm、厚さ0.6cm	立体
45	槍先 (有舌尖頭器)	考古資料	1月9日	DNP	現存長6.9cm、幅3.4cm、厚さ0.7cm	立体
46	穂つみ具 (石包丁)	考古資料	1月9日	DNP	長さ4.6cm、幅13.2cm、厚さ0.45cm	立体
47	竹がえし	民俗資料	1月9日	DNP	20.0cm×1.2cm 6本1組 容器 (朱塗りの竹筒) とセット	立体
48	穂つみ具 (石包丁)	考古資料	1月9日	DNP	長さ4.4cm、現存幅15.6cm、厚さ0.45cm	立体
49	謄写版関連資料	民俗資料	1月9日	DNP	35.6cm×15.6cm×2.1cm	立体
50	謄写版関連資料	民俗資料	1月9日	DNP	40.3cm×31.2cm×1.3cm	立体
51	箱蓋	民俗資料	1月9日	DNP	61.5cm×35.3cm	立体 (大)
52	鶏冠井荘表札	民俗資料	1月9日	DNP	63.9cm×21.5cm	立体 (大)
53	鑑札	民俗資料	1月9日	DNP	36.0cm×11.8cm×1.8cm	立体
54	紙芝居 (ソロモン海戦)	民俗資料	1月9日	DNP		平面
55	置き薬 (池田薬品)	民俗資料	1月9日	DNP	22.0cm×22.5cm×15.5cm	特殊
56	興隆寺跡出土 金箔軒丸瓦	考古資料	1月9日	DNP	14.8×23.3cm	立体
57	回転式除草機	民俗資料	1月9日	DNP	180.0cm×17.0cm×23.0cm	立体 (大)
58	風呂鋤 (ハダトリ)	民俗資料	1月9日	DNP	175.2cm×12.0cm×4.0cm	立体 (大)
59	風呂鋤	民俗資料	1月9日	DNP	122.8cm×12.5cm×4.5cm	立体 (大)
60	風呂鋤	民俗資料	1月9日	DNP	3本のうち最大のものは100.0cm×44.0cm×19.5cm	立体 (大)
61	円匙 (スコップ)	民俗資料	1月9日	DNP		立体
62	三ッ重朱杯	民俗資料	1月9日	DNP		立体

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- ・ 収蔵品管理システムのI.B.MUSEUM SaaSを導入済（文化遺産オンラインでの公開は未実施）であり、デジタル化した資料の画像を登録・公開し、様々な形で活用の幅を広げていきたい。
- ・ 施設で撮影機材を保有しており、デジタル化作業も行っているものの、かなり古いものである為刷新し、最新の撮影方法を学びたい。
- ・ 施設で民俗資料等のニーズの高い資料を優先し、教育や研究で使ってほしい。
- ・ 小中学校との連携事業として、デジタルアーカイブを活用した取り組みを行いたい。現状「AR長岡宮」が授業で活用されている例はあるが、資料館のデジタルアーカイブ活用のアイデアが欲しい。
- ・ 現在、向日市・長岡京市・大山崎町の3自治体共同での子ども用副読本があるが、向日市のパートが少ないので、向日市だけの歴史情報を詰め込んだもの、できればタブレットで見られてデジタルを活かした教材を作りたい。
- ・ 非常に珍しい人面土器が出土しており、裏側から見ると面白い。3Dなどで考古資料を鑑賞できるようにできると良い。

施設ヒアリング：課題

- ・ 【収蔵庫の課題】収蔵施設は館内のみで、すでに満杯の状態である。スペース不足のため、新たな寄贈品の受け入れが難しくなっている。持ち込まれる資料は、来館時点で一定の選別がなされた貴重なものであり、奈良県の事例のように廃棄する考えはない。
- ・ 他自治体では、少子化による空き教室を収蔵庫へ転用する例もあるが、向日市は今後15年程度は人口減少が見込まれておらず、同様の対応は難しいと考えられる。
- ・ 【機材・予算の課題】機材の更新も必要だが、施設として独自予算を持っていないため、自治体へ予算要求を行う必要がある。これまでに補助金申請が採択された実績はある。
- ・ 【データ登録の課題】文化遺産オンラインへの登録が義務化されているが、すでにI.B.MUSEUMを運用しているため、二重登録の手間が発生している。文化遺産オンラインには代表的な資料を掲載する方針だが、両者の住み分けは容易ではない。現在、I.B.MUSEUMから文化遺産オンラインやジャパンサーチへ自動連携する方法について情報を求めている。